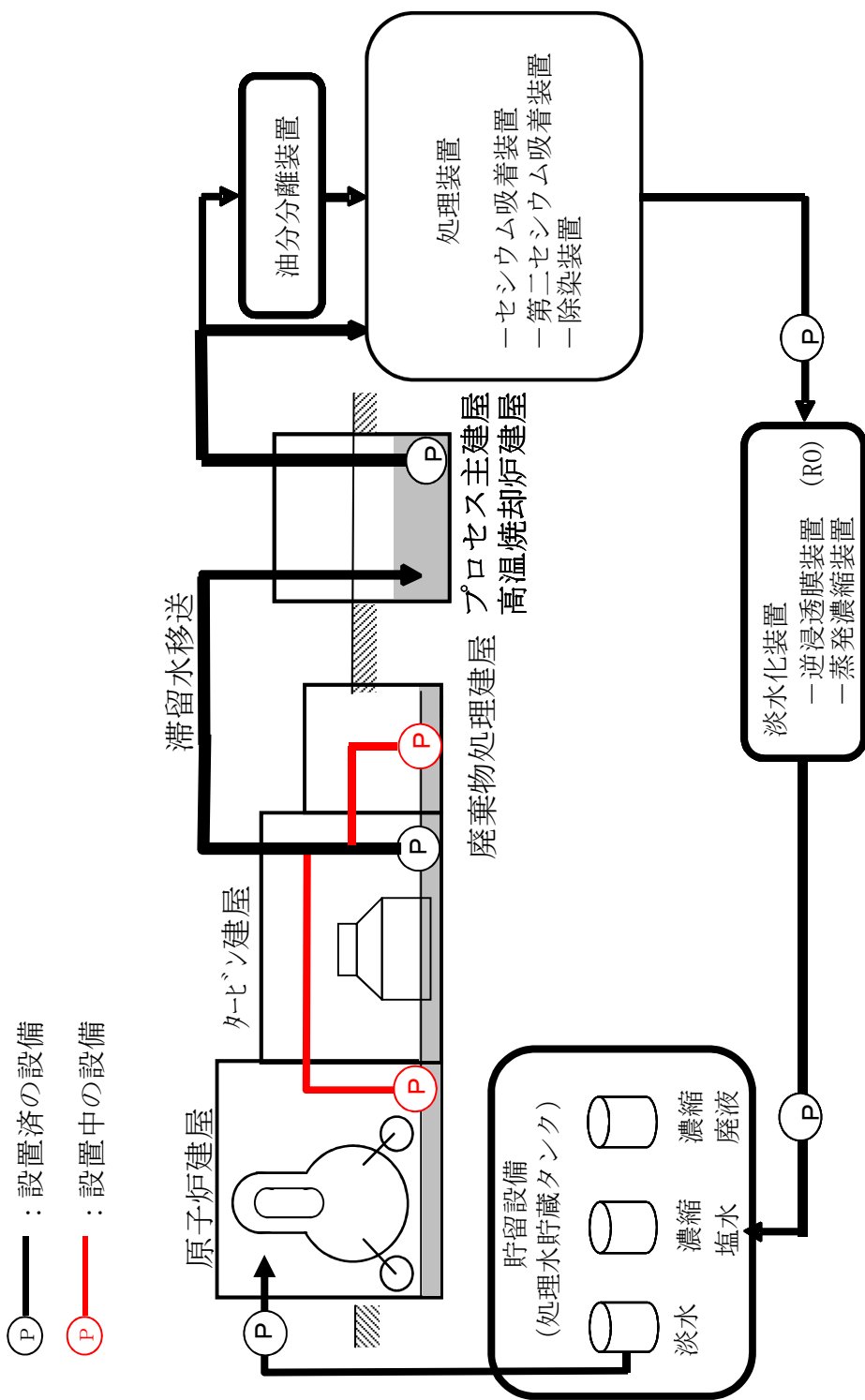


参考

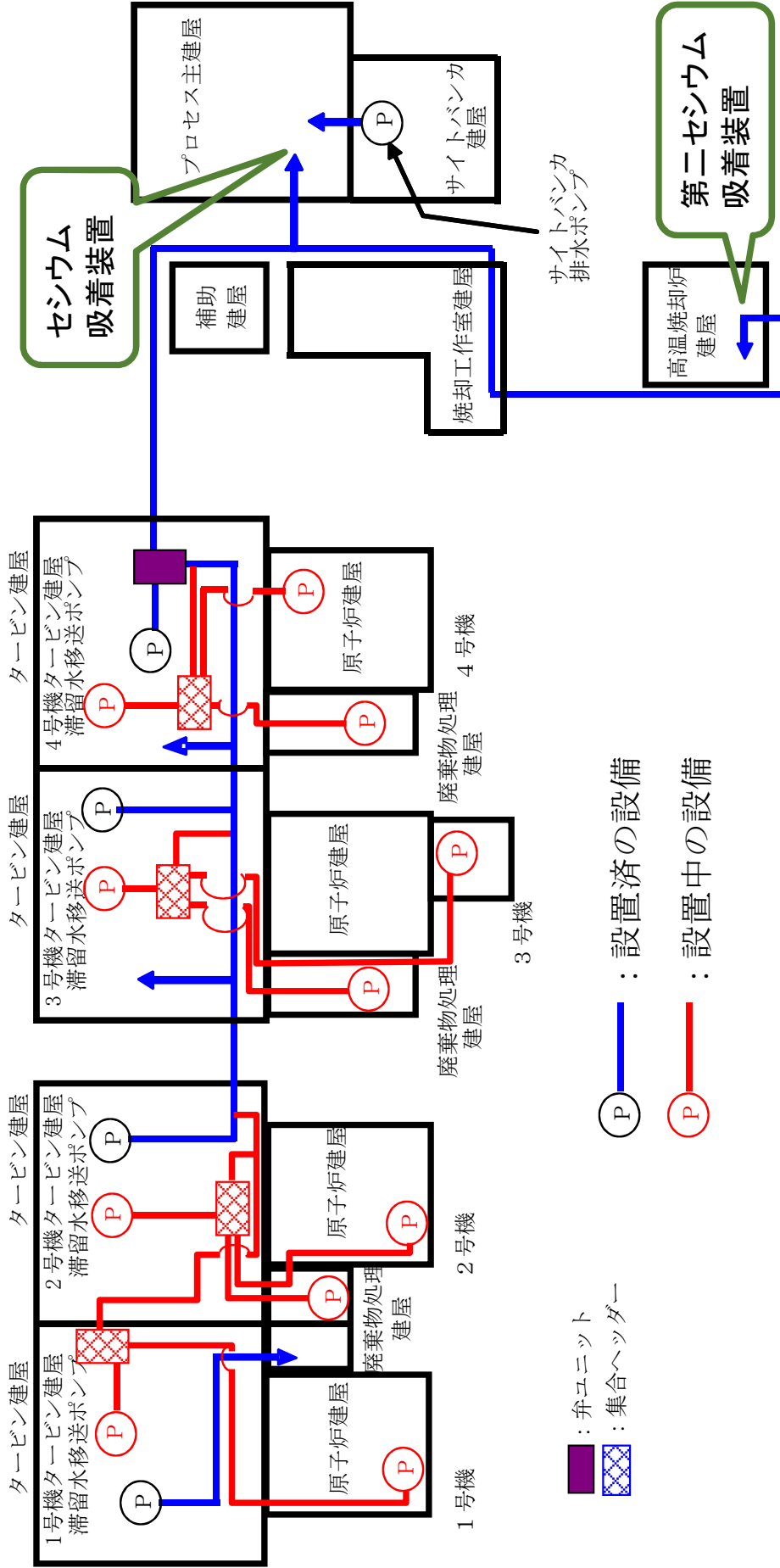
建屋滞留水処理の進め方と課題について
参考資料集

平成 27 年 5 月 20 日

東京電力株式会社



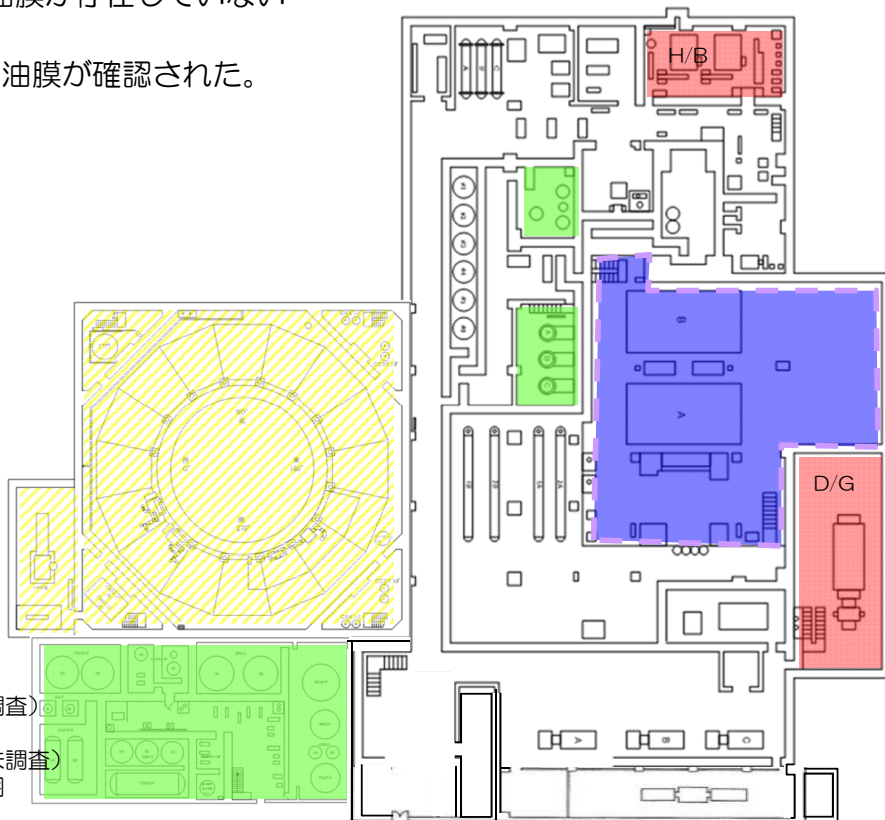
滞留水処理の流れ



滞留水移送設備イメージ

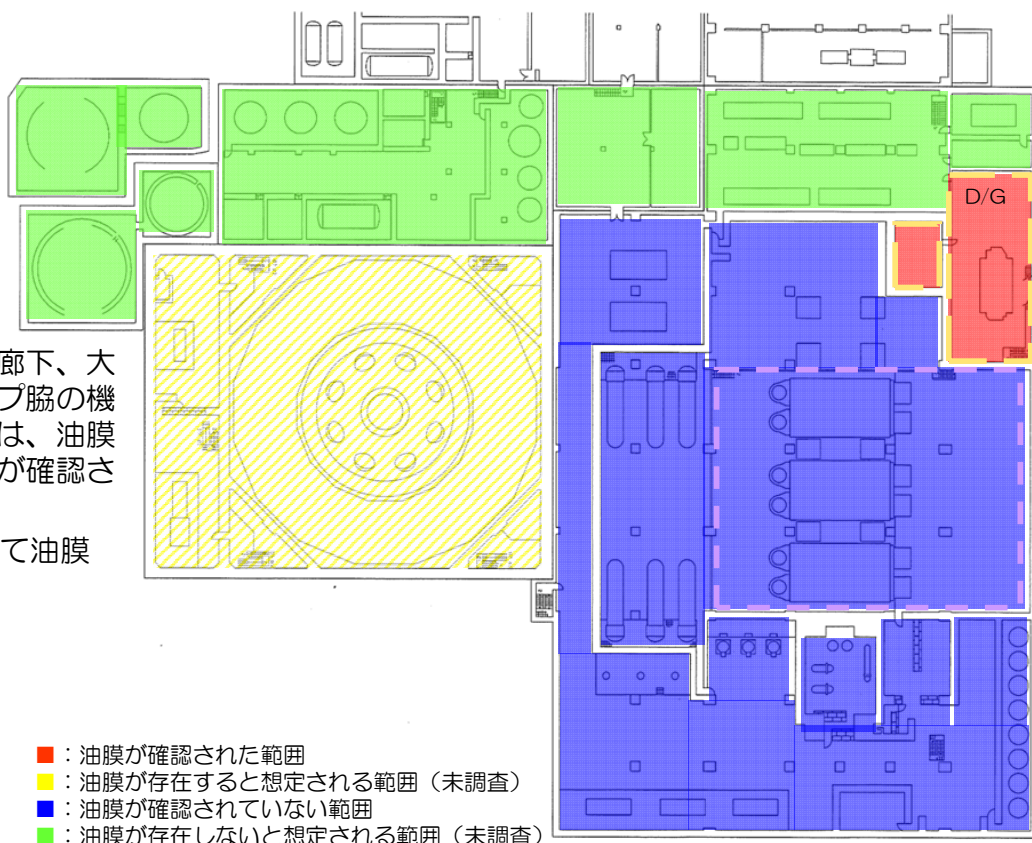
油分布状況（1号機）

- 復水器エリアは、目視にて油膜が存在していないことを確認した。
- H/B室、D/G室エリアで油膜が確認された。



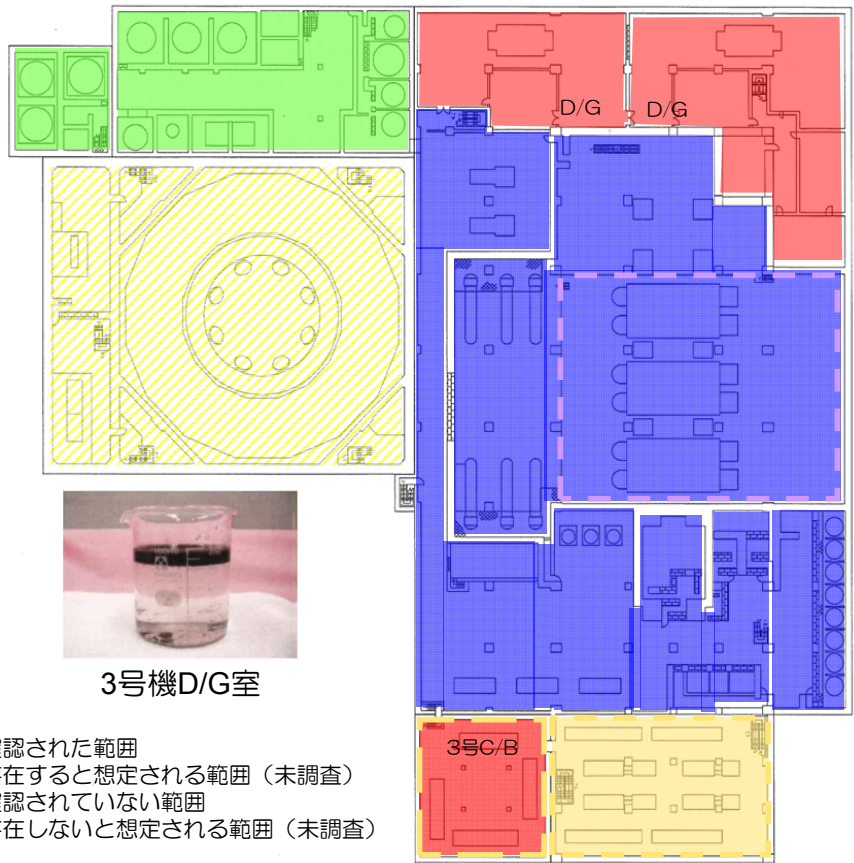
油分布状況（2号機）

- ヒーター室、竹の廊下、大物搬入口奥スロープ脇の機器ハッチにおいては、油膜が存在しないことが確認された。
- D/G室は、目視にて油膜が確認された。



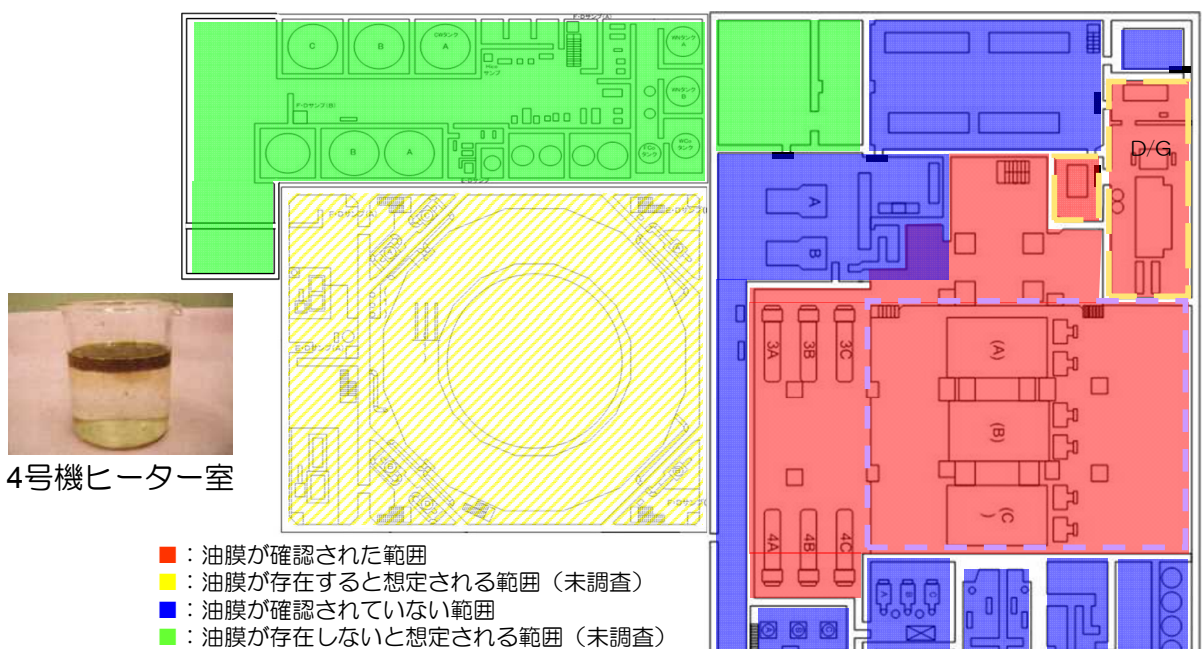
油分布状況（3号機）

- D/G室、C/B室エリアで油膜が確認された。

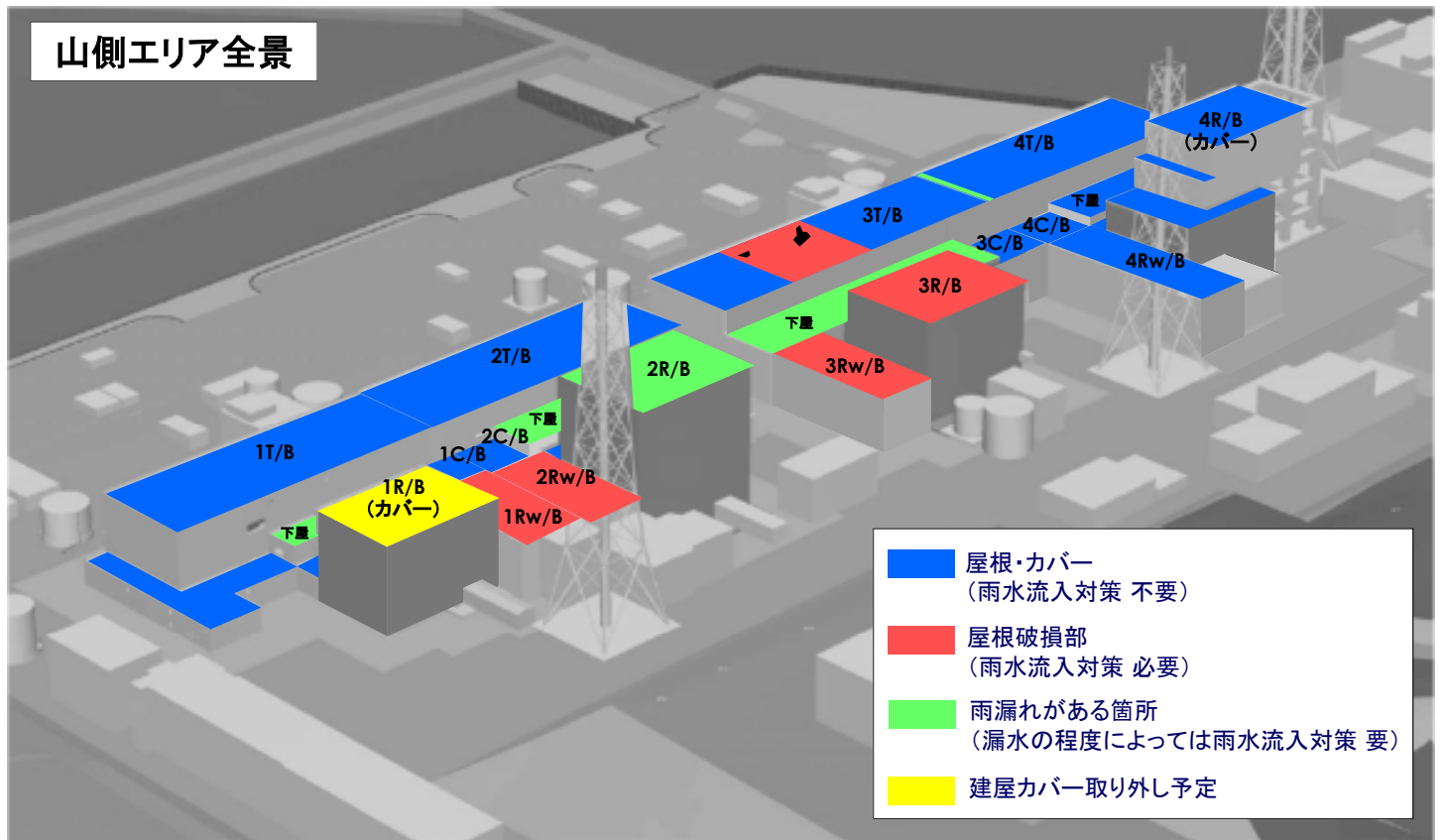


油分布状況（4号機）

- ヒーター室エリア、及びD/G室に油膜が確認された。
- その他のエリアは、数十ppm程度であり油膜は確認されない。

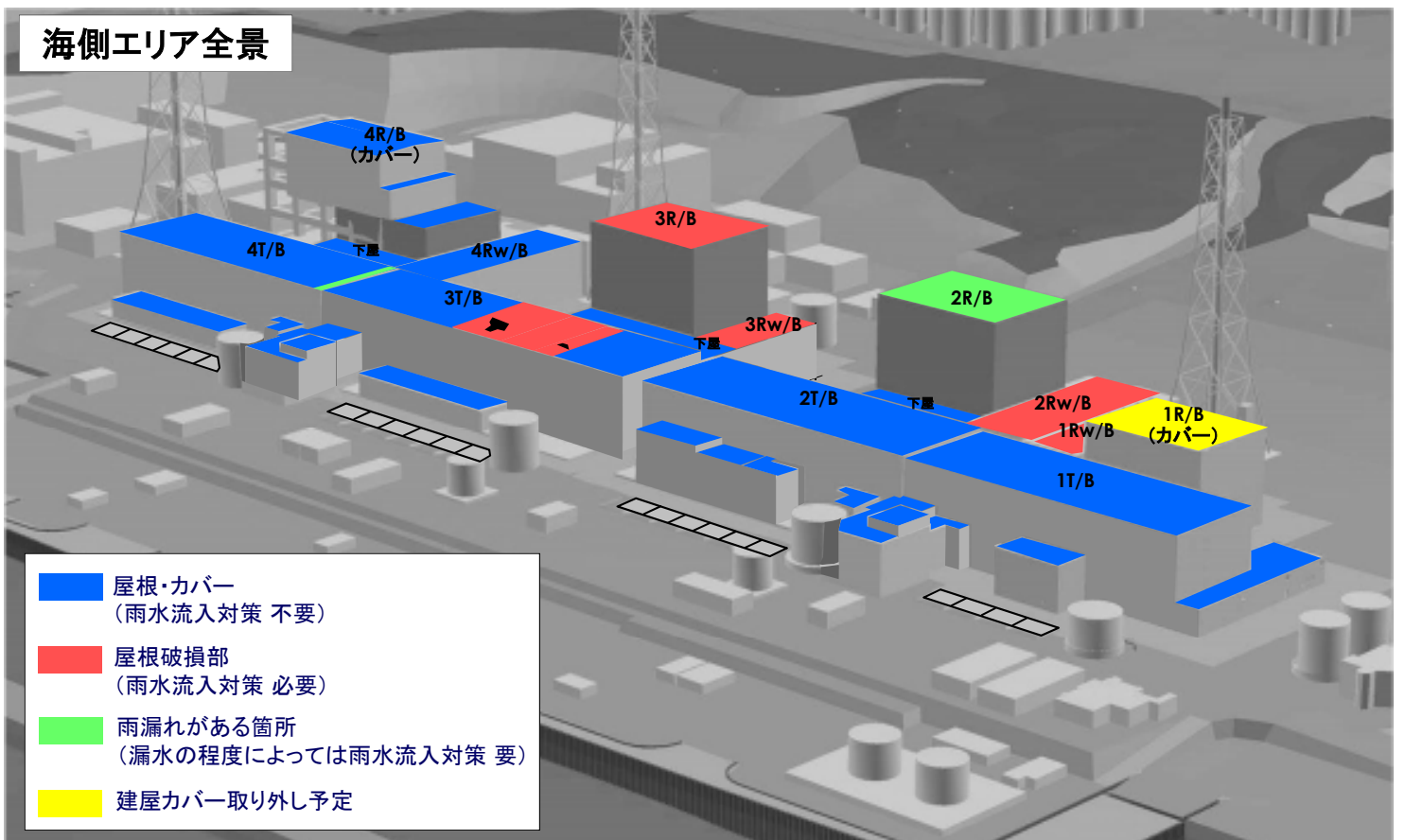


山側エリア全景

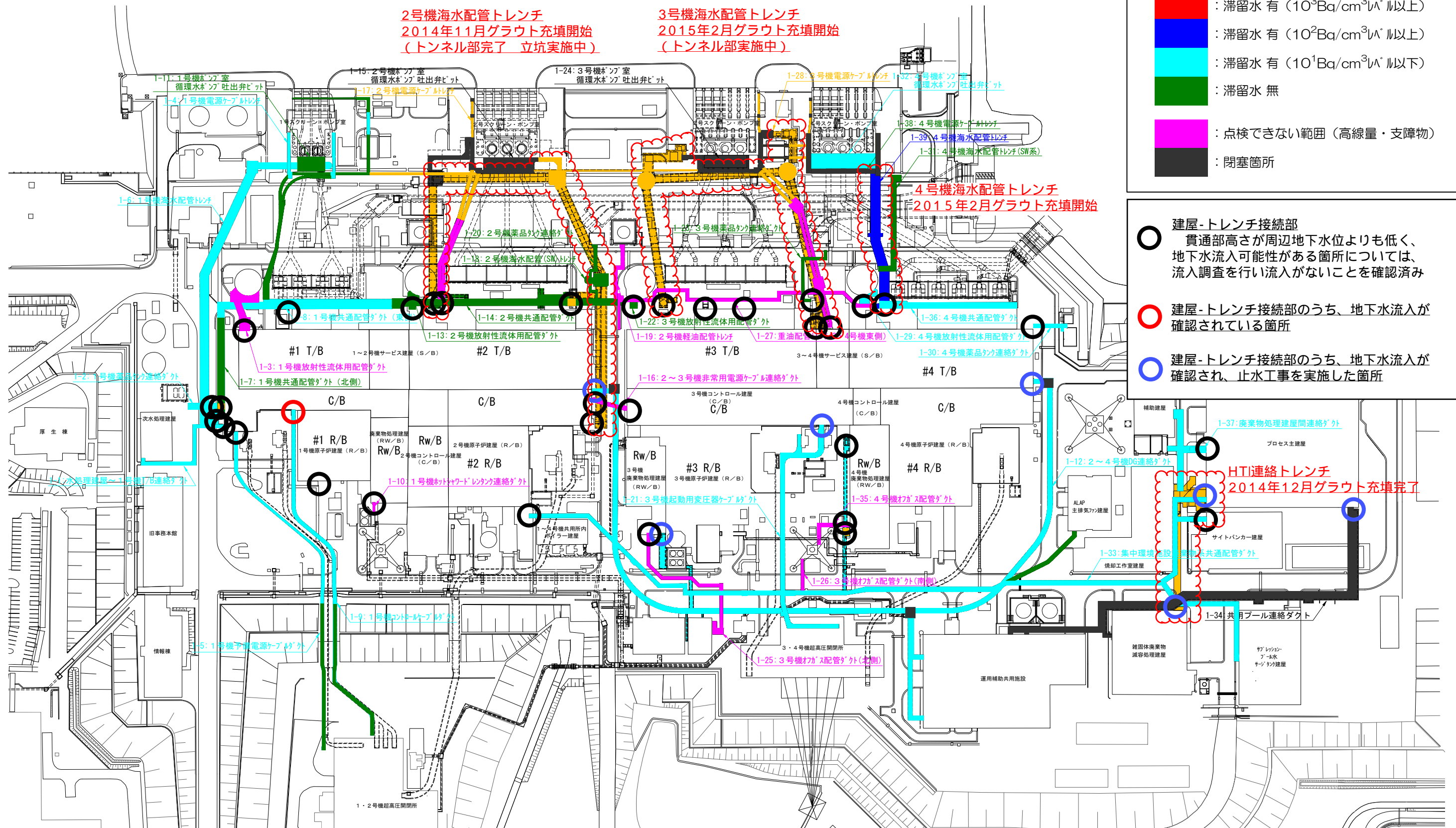
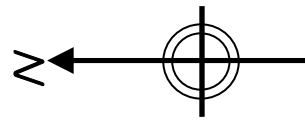


(参考) 屋根状況一覧 (2 / 2)

海側エリア全景



建屋 - トレンチ接続部一覽



2号機海水配管トレンチ
2014年11月グラウト充填開始
(トンネル部完了 立坑実施中)

3号機海水配管トレンチ
2015年2月グラウト充填開始
(トンネル部実施中)

4号機海水配管トレンチ
2015年2月グラウト充填開始

HTI連絡トレンチ
2014年12月グラウト充填完了

凡 例

- : 滞留水有 (H24.1以前の点検で 10^3Baq/cm^3 以上が想定される)
- : 滞留水有 (10^3Baq/cm^3 以上)
- : 滞留水有 (10^2Baq/cm^3 以上)
- : 滞留水有 (10^1Baq/cm^3 以下)
- : 滞留水無
- : 点検できない範囲 (高線量・支障物)
- : 閉塞箇所

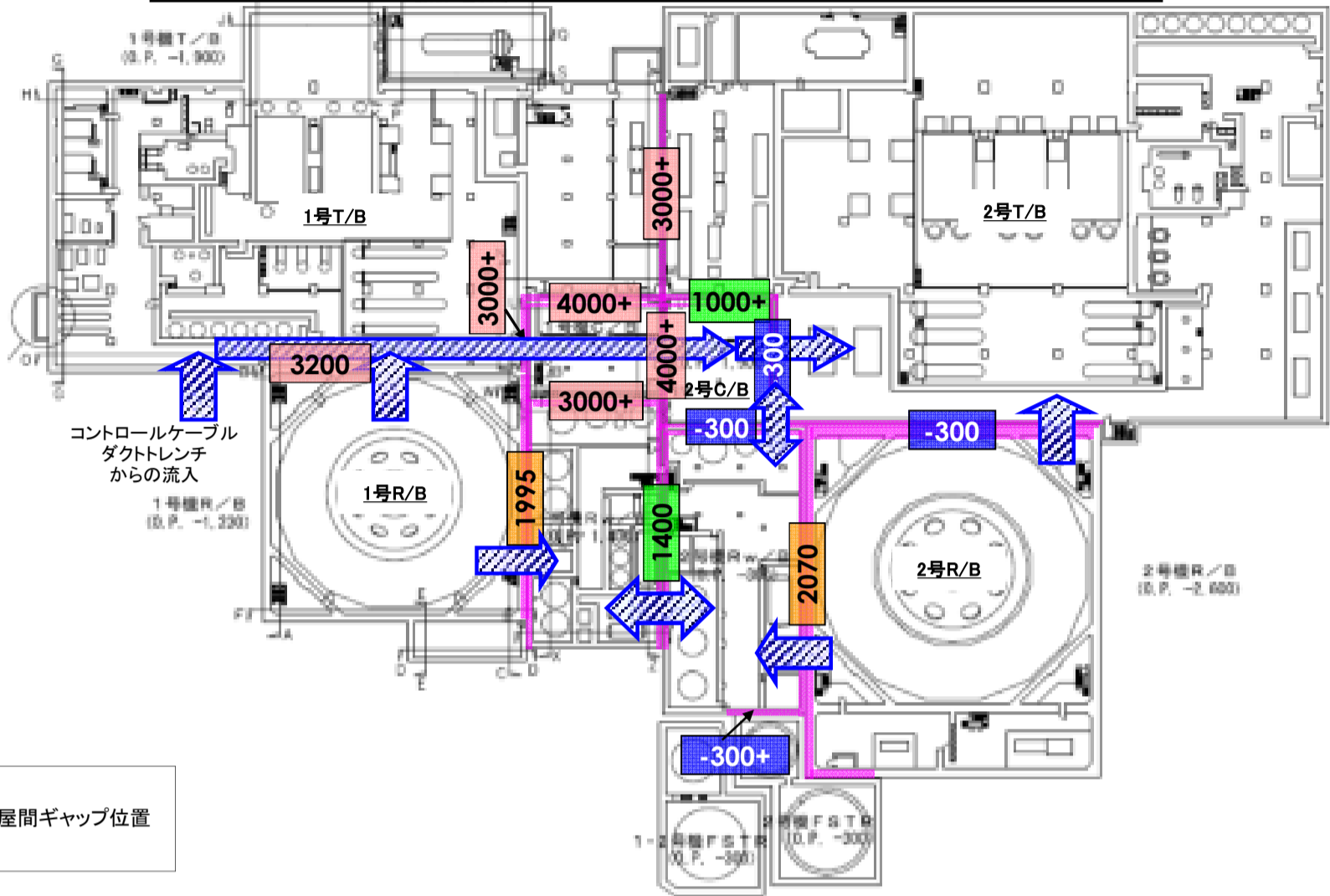
- 建屋-トレンチ接続部
貫通部高さが周辺地下水位よりも低く、地下水流入可能性がある箇所については、流入調査を行い流入がないことを確認済み
- 建屋-トレンチ接続部のうち、地下水流入が確認されている箇所
- 建屋-トレンチ接続部のうち、地下水流入が確認され、止水工事を実施した箇所

「平成25年度トレンチ内等溜まり水調査結果一覽」に加筆
平成26年度版の上記資料は、現在取り纏め中

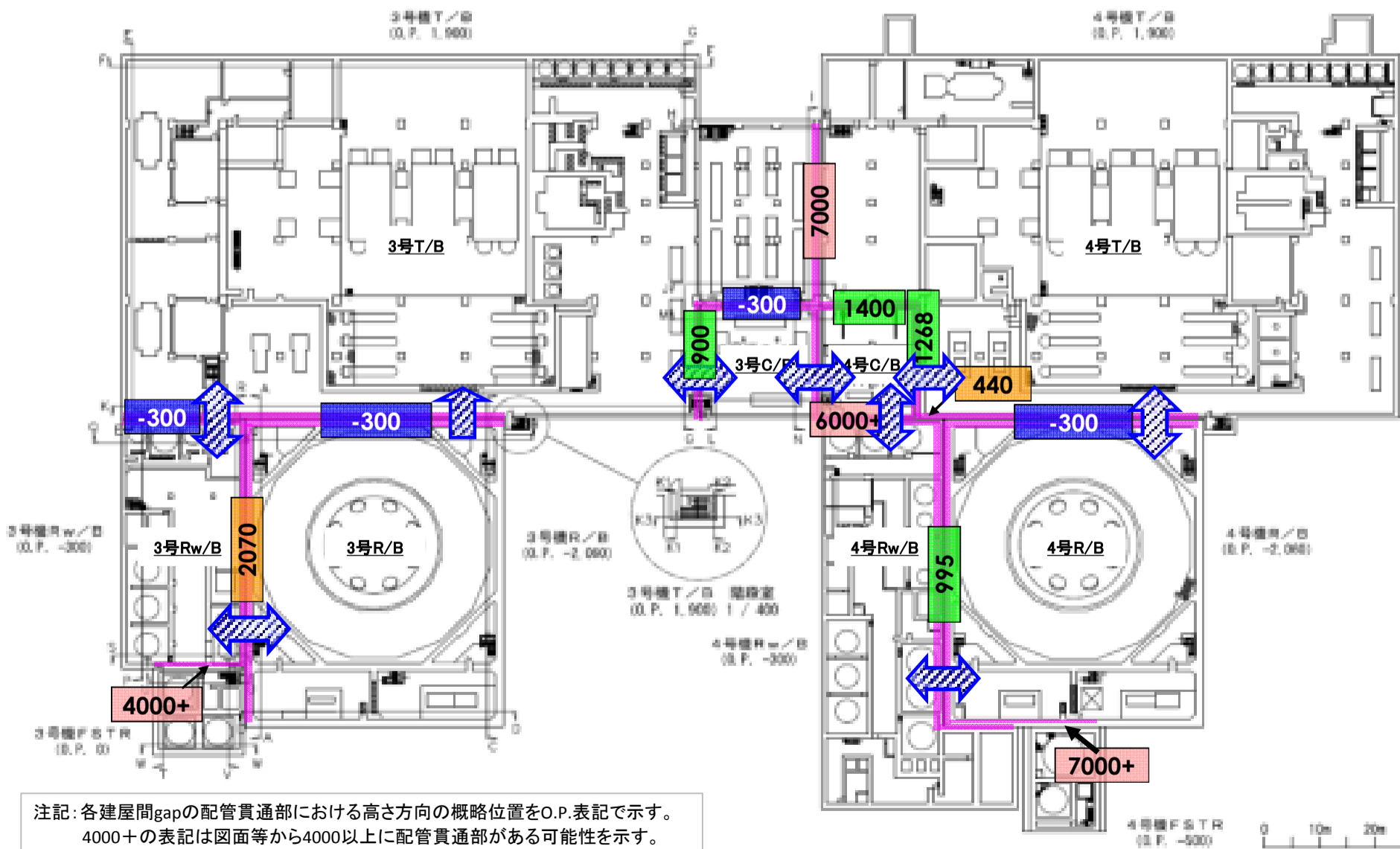
【1～4号 建屋間gap 建屋間の水の流れの推定 概要図】

1,2号機

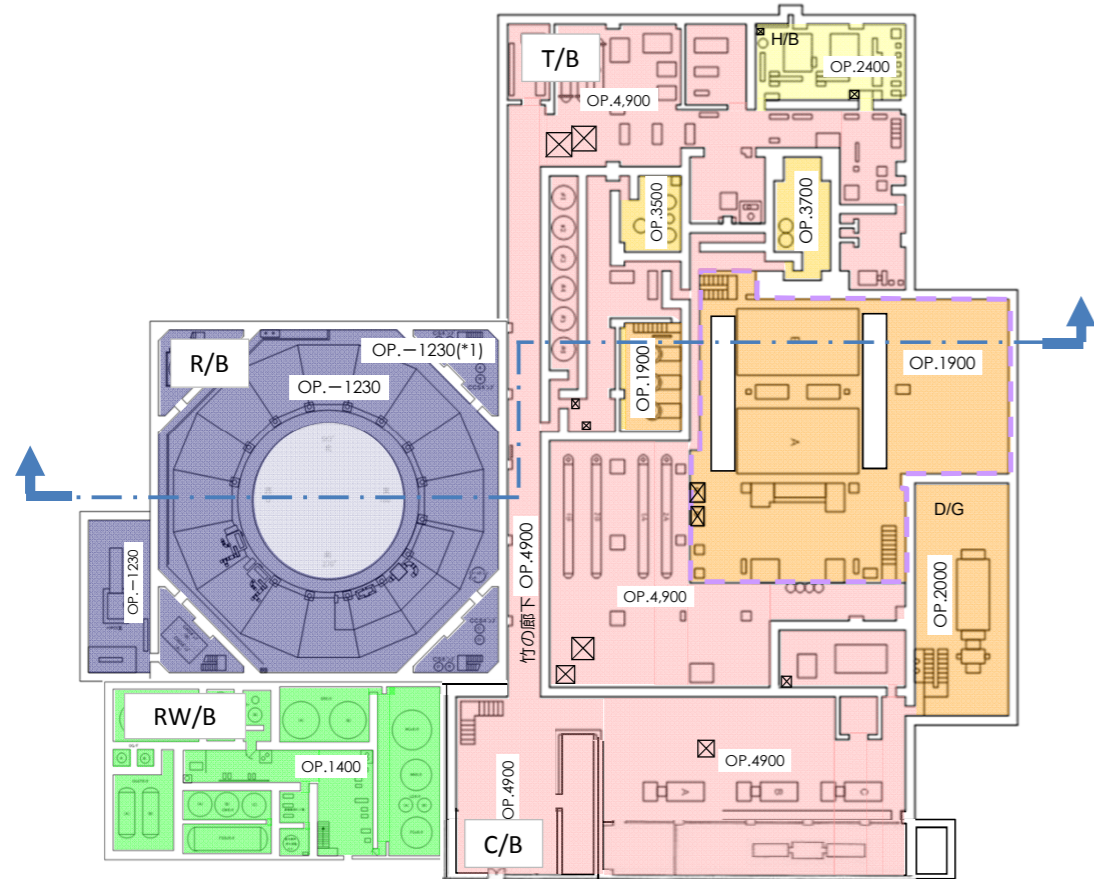
※矢印は、現時点で想定している水の流れ(仮説)である。
 推定精度の向上には、滞留水水位を低下させた際の水位トレンド等で挙動を確認することが必要である。
 なお、建屋間の連通が切れれば水の流れが変わる可能性がある。



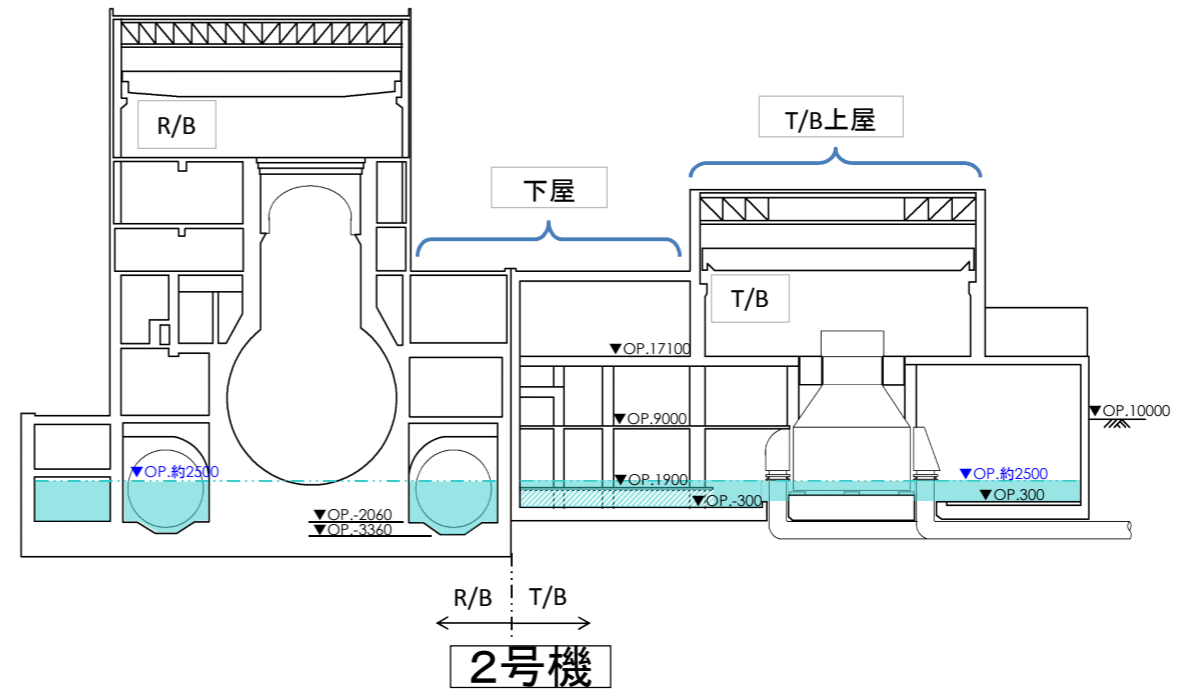
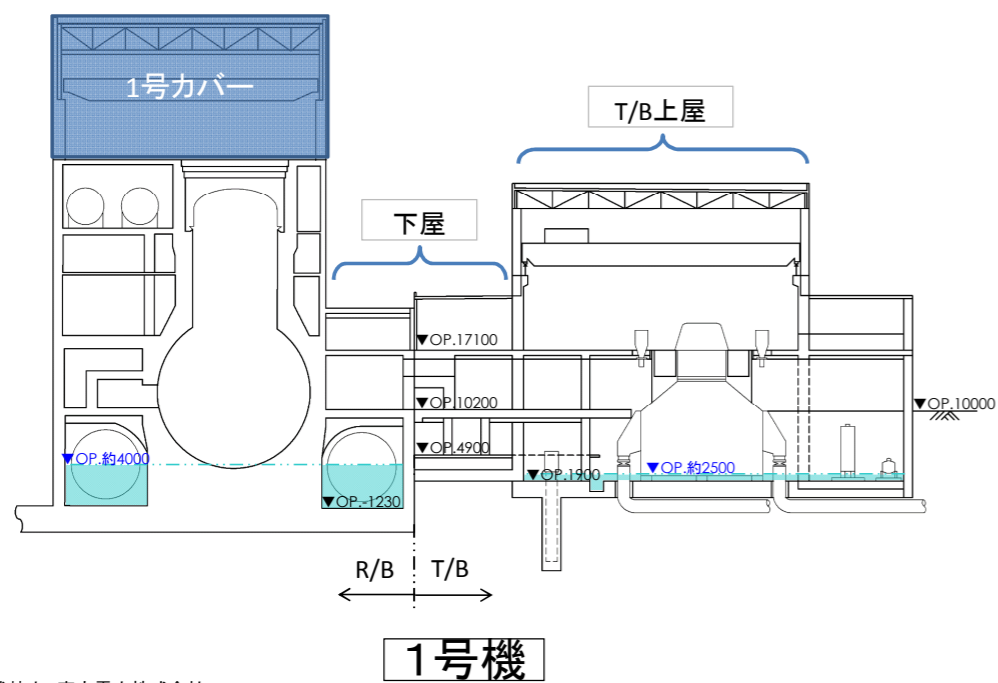
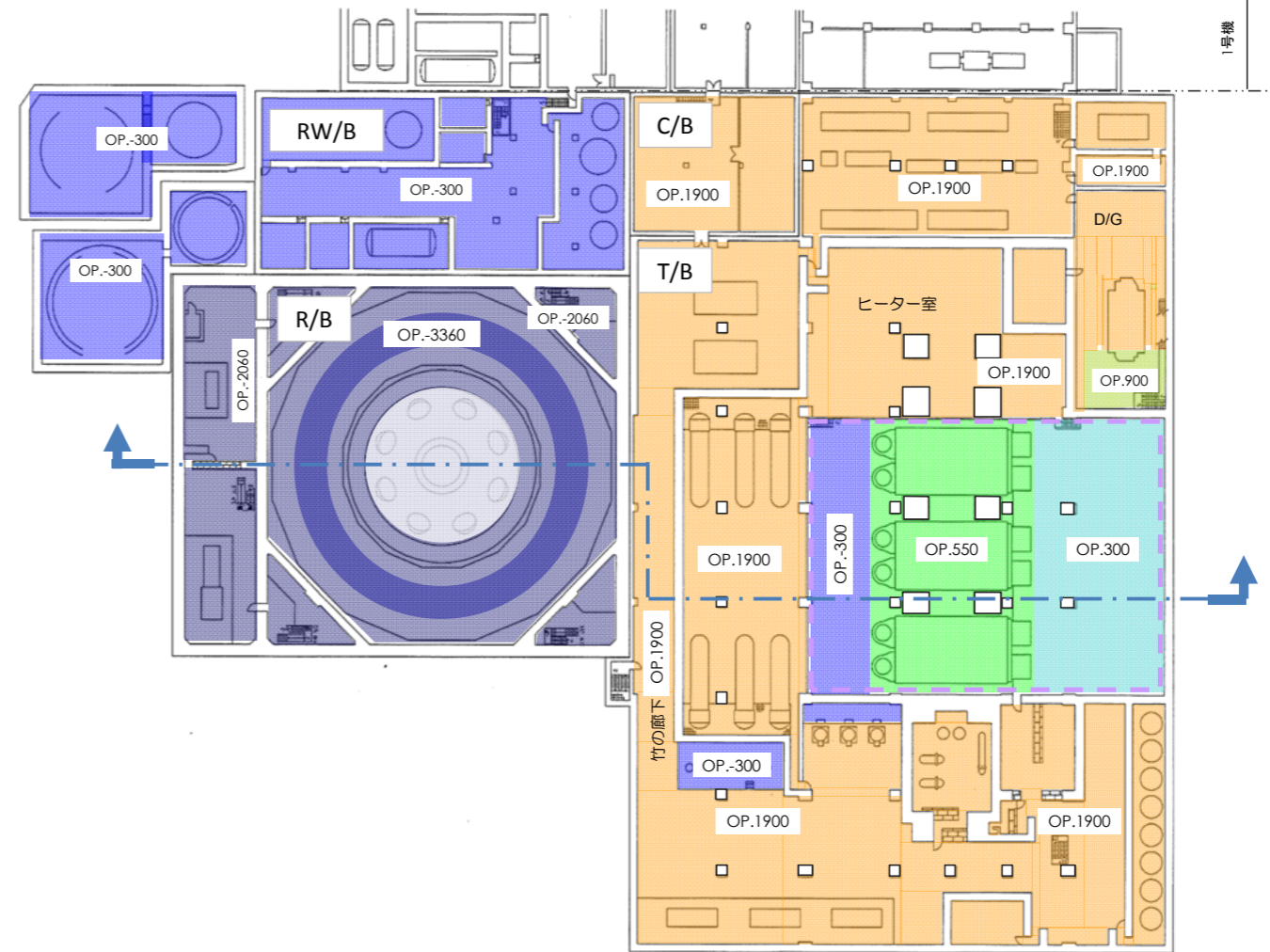
3,4号機



注記: 各建屋間gapの配管貫通部における高さ方向の概略位置をO.P.表記で示す。
 4000+の表記は図面等から4000以上に配管貫通部がある可能性を示す。



*1:OP.3000に中間階の床有り。



3/4号機 地下一階平面図、建屋断面図

